

ぐんまちゃんシター



群馬県の旬のおすすめ情報を
「ぐんまちゃん」がお知らせします

2017年2月号

発行：群馬県広報課 ぐんまイメージアップ推進室
TEL：027-897-2695 FAX:027-243-3600
E-Mail：kouhouka@pref.gunma.lg.jp

群馬の ものづくり



「ものづくり立県ぐんま」の歴史

○群馬の「ものづくり」は養蚕から始まった

群馬県における絹産業の歴史は、8世紀の中頃に新田郡から貢納された絹が正倉院に残されていることなどから、この頃にはすでに特産品として生産されていたと考えられています。そして飛躍的に発展したのは1859年の横浜開港後のこと。1872年には政府が近代化のモデル工場として富岡製糸場を設立し、器械製糸が国内に広まりました。

また、日本製の生糸が世界を席巻する中で、県内の織物業も発展していきました。中でも桐生は、江戸時代から「西の西陣、東の桐生」と言われるように、高級な絹織物の産地として知られていました。

日本一の養蚕県である群馬では、現在でも養蚕、製糸、織物(※)といった一連の産業が根付いています。(※養蚕、製糸、織物についての説明は次ページを参照)



平成26年に世界遺産に登録された富岡製糸場(東置繭所)

○養蚕から重工業へ

旧尾島町(現太田市)に農家の長男として生まれた中島知久平は、1917年、農家の養蚕小屋に「飛行機研究所」の看板を掲出。海軍の退役が決定した同年12月には、旧太田町(現太田市)の大光院東側にあった空き家の洋館に本拠地を移し、本格的に飛行機の研究・製造を開始しました。その後、昭和初期には「中島飛行機株式会社」と改称し、日本最大規模の航空機生産拠点へと発展。日本の最先端技術の前進に大きく貢献しました。

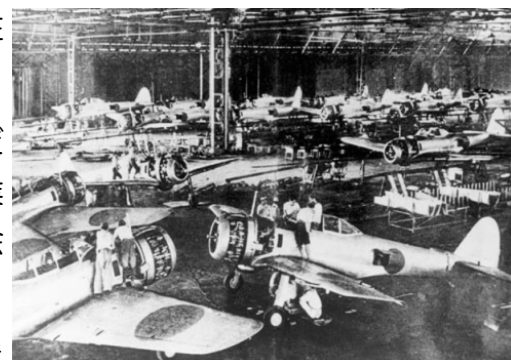
1953年に、中島飛行機を前身とする富士重工業株式会社が誕生。航空機事業をルーツに持つ富士重工業株式会社は、車の最も重要な基本性能は「安全」にあると考え、半世紀以上も前の「スバル360」の時代から現在に至るまで、安全性能を最優先した車づくりを続けています。

富士重工業株式会社は群馬県内の3つの工場から、国内だけでなく世界各国に向けて自動車を送り出し、群馬県の産業を牽引し続けています。(※絹産業関連と富士重工業株式会社の歴史については、別紙年表を参照)

日本の近代化を支えた絹産業から輸送用機器などの製造業に至るまで、長い年月を通じて継承されてきた高度な産業技術の集積により、群馬県は「ものづくり立県」として発展しています。



創業時の中島飛行機。当時自動車は群馬県内にこの社用車1台しかなかったという。(大正7年)



一式戦闘機「隼(はやぶさ)」を量産する太田製作所(昭和18年)

受け継がれる群馬の「ものづくり」

群馬県は、養蚕農家戸数、繭生産量、生糸生産量いずれも全国1位を誇っています(2016年現在)。海外製の安い生糸や絹製品の輸入の増大、生活様式の変化による和服離れ等により蚕糸業の規模は縮小していますが、全国で唯一、養蚕・製糸・織物といった一連の産業が現在でも営まれているのが群馬県なのです。

養蚕

蚕のえさとなる桑を育て、蚕を飼育し、つくらせた繭を出荷します。

過去



写真／大浦佳代

現在



県内の養蚕農家数は、ピーク時の84,470軒(1958年)から125軒(2016年)へと減少していますが、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録に伴い絹産業再生への機運が高まっています。企業の養蚕参入や若手研修生が現れるなど、養蚕を業として取り組もうとする動きがみられることから、ぐんま養蚕学校なども開講されています。

製糸

乾燥・保管した繭から生糸を製造します。



提供／富岡市



1872年に明治政府によって設立され、日本全国に器械製糸技術を伝えた日本初の本格的製糸工場「富岡製糸場」。群馬県には、現在でも稼働を続ける日本最大の製糸工場「碓氷製糸農業協同組合」があり、全国に生糸を出荷しています。

世界へ！

明治から昭和初期にかけて、生糸は日本の最大の輸出品でした。

織物

生糸を撚糸して染め、織り、反物などに仕上げます。



高級な絹の織物産地として知られていた桐生には、明治に入るとノコギリ屋根が特徴的な織物工場が数多く建てられ、その中で多くの女性たちが織手として活躍しました。現在でもノコギリ屋根の工場が残り、熟練の職人が活躍しています。



世界に羽ばたくSUBARU



○ルーツは中島飛行機

「飛行機研究所」を起源とし、昭和初期には日本最大規模の航空機生産拠点へと発展、日本の最先端技術を大きく前進させた中島飛行機。その中島飛行機を前身として設立されたのが富士重工業株式会社です。

富士重工業株式会社の生産本拠地である太田市の本工場には、現在でも中島飛行機操業時に使われていた施設などが残っています。



中島飛行機時代の排水溝の金属蓋



飛行機の出し入れのための大扉の跡

○受け継がれるスピリット

・スバル360

スバル360は、1958年に富士重工業株式会社が初めて世に送り出した四輪車です。中島飛行機の航空機の技術を応用した軽量構造で、量産型の軽自動車として大人4人乗りを実現しました。



スバル360

・水平対向エンジン、アイサイト

中島飛行機時代から大切にされている「安全」というDNAは、現在でも、「水平対向エンジン」や「アイサイト」という形で受け継がれています。



水平対向エンジン

※水平対向エンジン：SUBARUが生産する車すべてのモデルに搭載されており、低重心、低振動、軽量コンパクトといった特徴を持つ。パワーユニットに水平対向エンジンを採用しているメーカーは、世界の中でも稀な存在。

※アイサイト：ステレオカメラで前方の状況を立体的にとらえ、多彩な運転支援制御を緻密に行うシステム。20年以上研究・開発を続けてきたSUBARUだけのシステム。2つのカメラだけのシンプルな構成で、国内で現在販売されているSUBARU車の8割以上に装着。



アイサイトのステレオカメラ

「富士重工業株式会社」は、前身である飛行機研究所(後の中島飛行機)の創業から100年を迎えるのを機に、今年4月に社名を「株式会社SUBARU」に変更します。SUBARUの自動車と航空宇宙事業は、魅力あるグローバルブランドとしてさらに成長していきます。

また群馬県は、運転支援システムで自動車業界をリードするSUBARUと連携し、「自動運転車関連技術開発推進プロジェクト」を立ち上げ、自動運転車関連技術の開発を推進するとともに、県内中小企業の参入を支援しています。

「ぐんまちゃん」が工場見学！

「ぐんまちゃん」が、太田市スバル町にある富士重工業株式会社の群馬製作所本工場を訪問！普段は見られない工場の内部なども特別に見学させていただきました。



①これから本工場を見学させてもらうよ♪楽しみだなあ…



②昨年4月に完成した西本館の受付だよ。広くて開放的だね！



③この本館は、中島飛行機時代から使われているんだって！



④生産ラインをこんなに近くで見られるなんて、緊張しちゃう！



⑤日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞した新型インプレッサだよ！カッコいいね！



⑥「安心と愉しさ」をお届けするため、たくさんの車が群馬から各地へ旅立っていくんだね♪



群馬製作所矢島工場(群馬県太田市庄屋町1-1)で展示物や工場の見学ができます。
※原則10名以上、要事前予約。詳しくはスバルビジターセンターのホームページをご覧ください。

(<http://www.fhi.co.jp/plant/>)

中島飛行機がルーツ！「株式会社IHIエアロスペース」

群馬県富岡市に事業所のある宇宙関連機器の総合メーカーの株式会社IHIエアロスペースも、中島飛行機をルーツとする企業です。

同社は小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」の回収カプセルを設計・開発したほか、2013年に打ち上げられた「イプシロンロケット」の開発・製造に携わりました。

直近では2016年12月20日に、同社が全面的に開発・製造に携わった「イプシロンロケット2号機」が、打ち上げに成功しました。



提供/JAXA

取材先のご紹介や画像提供など、ご相談ください。

群馬県広報課 ぐんまイメージアップ推進室

TEL : 027-897-2695 E-Mail : kouhouka@pref.gunma.lg.jp

年代	絹産業(世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」、日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」など) ※世界遺産は(世)、日本遺産は(日)と標記	富士重工業株式会社
16世紀	南蛮貿易により生糸の輸入が拡大。 1591年：徳川家康の命で桐生新町町立て(日)	
17世紀	1685年：中国からの生糸輸入を制限。	
18世紀	初頭：西陣から桐生に紋織りが伝わる(日) 1713年：幕府の国産生糸の奨励により、本州中央部に養蚕地帯が形成され、生糸生産が盛んになる。 末期：富沢家住宅建築(日)	
19世紀	1804年：機神伝説を基に絹買商が現在の白瀧姫伝説を創作(日) 1859年：開港。日本からの生糸輸出が始まる。 1863年：田島弥平旧宅建築。(世) 1868年：白瀧神社と改称し現在の社殿を修造(日) この頃には赤岩から前橋に繭を出荷(日) 1870年：後藤織物創業(日) 1872年：政府が近代化のモデル工場として富岡製糸場を設立。器械製糸が国内に広まる(世) 1878年：小幡精糸会社設立（甘楽社小幡組の前身） 1884年：高山社設立(世) 1888年：永井流養蚕伝習所実習棟建築(日) 1891年：高山社、主屋兼蚕室建築(世) 1897年：甘楽社小幡組設立(日)	1884年：中島知久平誕生
20世紀	1902年：模範工場桐生燃糸合資会社設立(日) 1905年：荒船風穴1号風穴建設(世) 1909年：日本が世界一の生糸輸出国となる。 1912年～：富岡製糸場と田島家、高山社、荒船風穴が連携して、外国種や交雑種の委託飼育、その後一代雑種の蚕種製造にも取り組む(世) 1913年：甘楽町では町の70%の世帯が養蚕(日) 1917年：甘楽社小幡組由来碑建立、模範工場桐生燃糸合資会社事務所棟建築(日) 1924年：森秀織物創業（織物参考館“紫”）(日) 1926年：旧小幡組製糸レンガ造り倉庫建築(日) 1927年：高山社廃校(世) 1930年代：日本の生糸が世界市場の80%を占める。 1934年：桐生織物同業組合事務所（桐生織物会館旧館）建築(日) 1935年：荒船風穴営業停止(世) この頃まで赤岩では養蚕が盛ん(日) 1960年：田島家・高山家、この頃まで養蚕(世) 1981年：織物参考館“紫”開館(日) 1987年：富岡製糸場操業停止(世)	1917年：飛行機研究所創立 1931年：中島飛行機株式会社設立 1945年：社名を「富士産業株式会社」に変更 1953年：「富士重工業株式会社」誕生。航空機生産と自動車の開発を開始。 1955年：富士重工業が、富士工業、富士自動車工業、大宮富士工業、宇都宮車輛、東京富士産業の5社を吸収合併 1958年：スバル360発売 1960年：本工場開設 1966年：水平対向エンジンを採用したスバル1000を発売 1969年：矢島工場稼働開始 1983年：大泉工場本格稼働 1989年：SIA(米・インドアナ州)で生産開始
21世紀	2014年：「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産登録。「旧富岡製糸場 線糸所、東置繭所、西置繭所」国宝指定 2015年：「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」日本遺産登録	2003年：レガシィが'03～'04日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞 2005年：スバル車国内販売1000万台達成 2008年：水平対向ディーゼルエンジンを欧州市場へ導入 2009年：CVTリニアトロニックを新開発 2013年：富士重工業 創立60周年 2014年：スバル車国内生産2000万台達成。本社が西新宿から恵比寿へ移転。 2015年：「アイサイト」2015年度グッドデザイン金賞受賞。水平対向エンジン生産累計1500万台達成 2016年：「株式会社SUBARU」に社名変更を発表。水平対向エンジン発売50周年。新型インプレッサ発売。同車が16～17日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞